

教育通信

23年度 第5号
通巻1791号

発行所：
高知県教職員組合
〒780-0850
高知市丸ノ内2-1-10
TEL088-822-4135
FAX088-823-2355

全教職員
配布
読んでね

県教組HPは
↓こちらから



地教委+小中学校アンケート調査 深刻な実態が浮き彫りに

教員不足解消は緊急の課題。今こそ制度改善を

高知県教組では、今年4月から5月にかけて、二つのアンケートを実施しました。

一つは、35ある県内全地教委に対して「部活動地域移行と教員不足の実態調査」(以下、地教委調査。回答数35全地教委)を行いました。もう一つは、県内公立小中学校全校に対して「教職員配置状況の実態調査」(以下、小中調査。80校から回答)を行いました。

その結果がまとまりましたので、8月3日に記者会見をして発表しました。そして、課題解決のためには今こそ様々な制度の改善を訴えました。記事は3面まで。内容の概略を紹介します。なお、この結果は、県教組HPで公開中です。詳細は、そちらでご覧下さい。

全国でも、教員不足は深刻です。私たち高知県教組が加盟する全日本教職員組合(全教)は7月24日、教組共闘連絡会とともに調査した、「教育に穴があく(教職員未配置)」(5月)実態調査結果を発表しました。26都道府県・5政令市からの集約で2128人の未配置が起きて

かになりました。また、前年度同時期の調査にも回答を寄せた18都道府県・3政令市を抜き出して比較すると、1934人の未配置となり、前年度同時期の955人から倍以上に増えている、より深刻な実態が浮き彫りになりました。

高知県でも、年度当初から学校現場から「先生が足りない」という連絡が県教組にも入ってきました。そこで、きちんとした実態をつかむべく、地教委調査と小中調査に取り組みました。その結果ですが、地教委調査では2件、小中調査からは6件の未配置との回答がありました。その具体例では、「病休未配置で教頭が担任」「教科担任制、児童生徒支援が未配置」

などがあります。他県では、教科の先生が未配置で一学期間その教科の授業が行われなかった中学校の例や、2クラスの授業を一人の先生が同時並行で担当している例なども報告されています。しかし、この二つの調査からはそこまで問題のある実態は上がっていません。



「特支担任は、中学校免許しか持っていないけれど、小学校へ配置されています。本当に人を配置してあげるだけ、恵まれ

ていると思う次第です。」中学校免許しか持っていない人が小学校に着任しているという事例が多く見られます。「配置してもらえただけ恵まれてる」と思う現実には深刻な問題です。

「教職員の定数については基準を満たしているが、加配教員については要望通りの配置に至ってない。」教科担任制なども含めて加配がない中、その学校に配置された人数で工夫せざるを得ない現実も大変です。せめて希望した加配を、せめてもう一人をとい

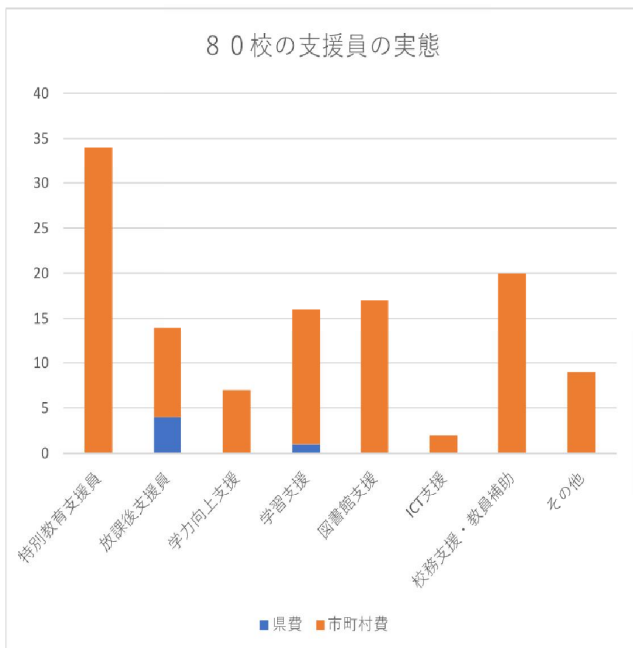
この子の名前〇〇。そんなこんなで、次年度の新生は、入学前に全員覚えていました▼そんなふれあいにはリフレッシュと二期への意欲に。この子達の笑顔を授業、もと思ひ、教材研究にも没頭▼夏休み、どうでしたか。研修ばかり?でも、少しでも気分転換と思いついたこと。出深いものになったことを祈ります。(和)

「汗流したいき、先生、泳ぎに行こう。今からやったら監視人がおらんき、子どもだけでは泳げんも」「よっし、行こう」▼自転車飛ばして移動。「ダム」と呼んでいた堰堤下の川で、部員の多くと一緒に川遊び▼おかげで、監視員がいなくなった後でも小学生もバシヤバシヤ。「先生、

夏休みの思い出話。と言っても教員になった40年程前▼小さな中学校に勤務中。家は地域の教員住宅。午前中は自宅研修。午後1時から部活動。バスケット部の練習。3時頃に終了。すると「汗流したいき、先生、泳ぎに行こう。今からやったら監視人がおらんき、子どもだけでは泳げんも」「よっし、行こう」▼自転車飛ばして移動。「ダム」と呼んでいた堰堤下の川で、部員の多くと一緒に川遊び▼おかげで、監視員がいなくなった後でも小学生もバシヤバシヤ。「先生、

ような声を感じられます。「年度スタートでの未配置はないが、昨年度は病休2名に對する代替教員がいなく、大変であった。」代替の未着任への不安は多くの指摘がされています。

結局、「教員不足により、子どもたちの学習の機会の喪失や現場教員の負担増に繋がる可能性がある」と心配されているのが実態です。必要な教職員は正規で配置する、このことを強く求めます。



支援員の制度改善も！

また、これら二つの調査では支援員の实態についても質問しました。

小中調査で回答のあった80校の着任状況は、左の表とグラフの通りです。目立つのは、特別教育支援員の多さです。多学年に属する子どもが居ても8人までは1学級という状態では、一人の教員ではとても対応しきれない現実がここに現れていると考えられます。

また、多忙な学校現場の教職員の負担軽減を少しでも図るために、校務支援・教員補助などの支援員配置が進められています。そのほとんどが市町村費であり、地教委の努力がうかがわれます。逆に言えば、現在の教職員定数配置や学級定数では現場はかなり困難な状況であることの証明でもあります。地教委調査の回答

支援員着任状況

	県費	市町村費
特別教育支援員		34
放課後支援員	4	10
学力向上支援		7
学習支援	1	15
図書館支援		17
ICT支援		2
校務支援・教員補助		20
その他		9

再任用も

小中調査では、再任用の着任状況についても質問していま

では、「未着任がある」と回答した地教委は5つ。支援員をもっと配置したいけれど応募者がいないという悩みを書いているところもありました。

こうした数も含めれば、教職員不足は統計的な数値よりももっと多くなると思われま

す。現在、高知県では教職員のうち約20名に一人が再任用の方です。この人たちがいなければ、高知県の学校は回りません。しかし、月給で言えばフルタイムの教諭の場合、手当も含めて60歳の時の約60%程度、一時金にいたっては手取りの金額が30万円程度と、給与などの待遇面はかなり厳しい状況に置かれています。

「『給与が安く、モチベーションも上がリません』といわれるのを、『子どもたちのために』と説得したが、心苦しく感じている。」

「勤務内容は、定年前と同じなのに、給与が下がるのが気の毒である。極小規模のため、一人の担当する校務分掌も多く、『教務主任』と『研究主任』をお願いしている。」

「再任用でへき地に配置になっても、へき地手当が付かないのは問題ではないか」

など、多くの声がある。

ゆきとどいた教育署名 今年もとります。

教育予算増額・教職員定数改善などを求めて、県議会と国会に請願する署名です。35人学級の実現など多くの成果を残してきました。ぜひご協力下さい。

高知県・署名スタート集会

日時 2023年9月2日(土) 15時~16時半

場所 高知城ホール2F会議室

*終了後、街頭署名行動を行います。

★各学校には組合ルートで署名用紙を下ろします。

★県教組HPでも署名用紙は公開中。ご利用ください。

寄せられています。24年4月からは、同じ教諭として仕事をしても「60才までの教職員(満額の給与)・定年延長の教職員(7割の給与)・暫定再任用の教職員(前述の通り6割程度の給与)」と三つの給与体系になります。金額は大きく違ってくる。短時間の方は、もっと複雑です。しかし、現在の配置では短時間の方

も定数内でカウントされます。こうした制度の改善を今すぐしなければ、特に暫定再任用の方のモチベーションなどに大きな影響が生じます。それは、現場に必要な教職員確保がより困難になることにつながります。記者会見では、この制度の改善を高知県独自で行うように強く要望しました。

地域移行でも問題点が浮き彫りに

地域移行について、地教委調査で質問しました。35地教委のうち、3地教委の5部活動で行っていることが判明しました。移行していない32の地教委では、まだ「様子見」の状態であり、「検討中」です。その回答は、左の表の通りです。多くの地教委が、(指導者や施設面で)地域に受け皿がないことや財政面の裏付け(地域指導者への報酬の継続的な財源)

がないことなどを指摘しています。また、保護者の負担なども指摘しています。部活動が学校教育の中で一定の役割を果たしてきたことは間違いありません。その役割を引き継ぎ

ながら、子どもたちのスポーツ・文化・自治活動を保障するための条件整備をすることは重要な視点です。しかし、この視点からの検討はとも十分とは言えません。その状況の中で、「教職員の働き方改革」を主な動機として、しかも土日のみ先行して地域移行して行くことの共通理解は、これとても十分とは言えません。地域の実情にも配慮しつつ、教職員はもちろん保護者や地域の共通理解も図りながら、そして何より子どもたちの希望も入れながら、考えていかねばなりません。また、平日の部活動の指導を考えると、部活動の担当をする教職員も必要であり、この問題でも教職員増などの対策が必要です。記者会見では、決して性急な結

①移行していない理由

*%は、32地教委に対するもの

Table with 3 columns: 選択肢, 回答数, %

②これからの予定

*%は、32地教委に対するもの

Table with 3 columns: 選択肢, 回答数, %

論を出すようなことがないように、十分に検討していくことを求めました。ともかく、今の学校現場の様々な課題は深刻で、その解決は待ったなしです。7月28日文科省発表資料では、全国で2021年度に精神疾患で辞めた教職員が953人、転職した人が4000人。この数を行行政は真剣に受け止め、早急な改善を実現すべきです。

7月23日(日) 第47回教育講座実施!

夏休みに入ったばかりの7月23日、県民文化ホール多目的室をメイン会場に、のべ120名が参加しました。



午前中の全体会の講師は、石井雅幸さん(天妻女子大学)の講演(写真下)。「直接体験することの価値を考える」。子どもたちの授業における直接体験の大切さをお話しいただきました。午後は、民間教育サークルが中心になっての7つの分科会に分かれての授業実践の学び合い。二学期からの授業づくりに向けて、真剣に学び合いました。(写真上・高知城歴史博物館で行われた社会科分科会の様子)



教職員のための自動車保険は 全教自動車保険



教職員と家族を守って32年

WEBでかんたん見積依頼



右のQRコードから見積り依頼を→

お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

平成大合併で消えた自治体名⑤

1	2	3	4
5			
		6	7
8			9
10			11

- 【タテのカギ】
1. 金管楽器の一つ。ニニロツソの「夜空の〜」は有名。
 2. ゼロを言い換えると。
 3. ○○もない返事。元々は「鮎」という魚って知っていい？
 4. フランスのベル

- 【ヨコのカギ】
1. ナールが発見。動物性タンパク質の粉末。
 2. 法や社会秩序が無視されたり、常軌を逸したりしている様子。今の国会運営？
 3. 苦痛から逃れられず、苦しむこと

1. 練習のこと
2. くつきりワド。け○○、と○○ある、○○ふ
3. あいまい○○とした世界
4. 卓球のラケットの持ち方の一つ
5. 会下。読めるかな？寺を持たずに修行する僧のこと。
6. 主君に対して呼び掛けることば。
7. 金管楽器の一つ。くるると回った朝顔のような形。

- 【6マス当選者】
- 「はるのちよう(春野町)」でした。抽選の結果、次の3名の方が当選されました。おめでとうございます。
- 小笠原秀春さん(土佐町小中学校)
 - ニッシーさん(田野中学校)
 - ぼんさん(高知国際高校)

夏大りしちやう
なつちゃん



夏といえは
青春



【みなさんの声より】

・学習会の内容や組合の要望がわかりやすく読みやすく出来ていて、勉強になりました。「みなさんの声より」がいいですね。クロスワード、久々にやって面白かったです。ありがとうございます。

・久しぶりに「公立小」に戻りましたが、激務過ぎる！授業以外の文章作りにも苦戦中。聞くにも先生が忙しすぎて聞きづらい状況化！

・サクランボを同僚がお裾分けしてくれました。忙しい中、職場の机に置かれていたサクランボにほっこりとしたひとときでした。

・我が校は期末試験前で、つゆの蒸し暑い最中、皆それぞれ課題に取り組んでいます。支援員として、できる限り応援します。

・今回の問題は難しかったですですね。特に「四幅」を読むのに苦労しました。職場の何人かの知恵を合わせました。

・管理職の再任用は、現職時の学校に限ると聞いていたのに、本校には、再任用の校長先生が来られました。これまでも、管理職で再任用かつ他校希望の方もいたのに、それは出来なうと言いつつ、何故でしょう。また、再任用でありながら、教頭不在・事務職不在・養護教諭不在で、未経験の忙しさの中、仕事をしている校長先生を見てみると、気の毒だし、再任用で給与カットしておいて、昨年度以上の仕事内容を容赦なくやらせる県教委には、不信感しか感じません。再任用の気持ちに萎えます。

・年度末に閉校を控えた本校の一学期の最後の締めくくりは、恒例の全校レク。校区にある環境省選定・快水浴場(海水浴場ではなく)百選の砂浜で、五・六年生が考えたビーチリレー、海水浴&ゴイソン掘り、宝探しを満喫しました。中でも初の試みとなるビーチリレー

が大盛り上がり！三角に置いたコーンを回る単純なコースのはずが、コースの内側を回るハプニングが発生。「コーンを回って」と声をかけると、コーンの周囲をぐるぐるのバットのよう2回転する猛者まで出現(笑)。まさに抱腹絶倒。想定外の珍事に「ビデオに撮りたかった！」と観客席は笑いの渦に包まれました。昨年、波が強くて叶わなかった海水浴も実現。五・六年生のリクエストで買ってもらった宝探しの景品・アパンマンチョコを頬張って、思い出深いひとときでした。

メールはこちら



・再任用(4日勤務、理科・算数20時間)2年目。小学校教科担任制の最大の問題点は、従来の学級担任制と今の教科担任制をつなぐ移行期のプランがないこと。